

大学生の教育価値観の国際比較
——7カ国・地域の質問紙調査から

加賀美 常美代

大学生の教育価値観の国際比較

— 7カ国・地域の質問紙調査から

加賀美 常美代

問題の所在と研究目的

日本政府は「グローバル戦略」を展開する一環として留学生を高度人材として受入れ、2020年までに優秀な留学生を戦略的に獲得していく留学生受入れ30万人計画を打ち出した（文部科学省、2008）。これまでの留学生政策はおもに国際社会への知的社会貢献を目指していたが、30万人計画では大学キャンパスの教育だけでなく、大学を卒業・修了した留学生を日本で雇用促進させ、日本社会をグローバル化させようとする新たな教育戦略を示している。こうした留学生を介した日本社会の制度的移行は、マクロレベルでの日本社会のグローバル化と多文化共生を促進させるという大きな意味があるが、同時にミクロレベルでは、多様な文化的背景の人々との異文化接触が不可避に進行することを意味する。そのことは大学キャンパスだけでなく職場や地域社会など複数のコミュニティにおいても様々な対人葛藤が生じる可能性を含んでいる。そうした葛藤の背景にはエスニック集団や個人の多様な価値観が存在し、それらを複合的に理解することが重要となる。

心理学における価値観研究は、人々の人生の指針ともいえる価値観を知ることにより、多文化社会で生きる人々の多様性の理解に貢献できる。ここでいう価値観とは、ある行動様式、またはある最終的狀態より個人的または社会的に、全く反対の行動様式、または最終的狀態のほうが望ましいとする永続的な信条である（Rokeach, 1973）。Schwartz & Bilsky (1987) は、価値観を、(a)概念または信条である、(b)望ましい結末の狀態または行動である、(c)個々の状況を超越する、(d)行動や出来事を選択や評価の指標となる、(e)相対的重要性によって順序付けられるという5つの特徴を要約している。これらの特徴から価値観は人間の中核に位置し（Rokeach, 1973）、優先順位によって人間の行動が影響されることを示している。したがって、教育に関する価値観は、教育・学習場面で人々が経験する感情や認知、行動様式に影響を及ぼすことが考えられる。

教育に関する価値観については、加賀美（2007ほか）は教育価値観として概念化し、望ましい教育について人々が抱く信念の集合体と定義した。それは理想的教師観、理想的学生観、理想的教育観から構成される。理想的教師観とは、教師、学生、父母から見た好ましい教師観であり、理想的学生観とは彼らから見た好ましい学生観である。また、理想的教育観とは、教育方法と教育目標を示す教育そのもののあり方を反映する教育観を意味する。

加賀美（2004）は、上述した理想的教師観、理想的学生観、理想的教育観の3領域から成る教育価値観尺度を開発したが、領域別因子分析では、理想的教師観には専門性、熱意、学生尊重、教師主導の4次元、理想的学生観には学習意欲、規則遵守、従順の3次元、理想的教育観には文化的視野、人材教育、社会化、

自主独立、創造性の5次元が見出された。さらに、この教育価値観尺度を用いて中国人留学生、韓国人留学生、日本人教師、日本人学生の4群間で比較を試みた。2要因分散分析の結果、群別に日本人教師は学習意欲、自主独立、国際的視野を重視し、創造性をあまり重視しない傾向が見られた。日本人学生は規範遵守や社会化という保守性を重視しつつ、自主独立や創造性という革新性を重視するという二律背反的な教育価値観を持ち合わせていた。中国人留学生は熱意、従順、社会化、人材教育を重視しており、明確で整合した教育価値観を持っていた。韓国人留学生は教師主導が重視され、理想的学生観、理想的教育観では他の三群の中間に位置していた。加賀美・大淵（2006）は、31項目の短縮版教育価値観尺度を開発しこの尺度を使用し判別分析によるデータ解析を行ったところ、日本人学生は自己実現的価値と自由主義的価値を重視し、中国人留学生は伝統権威主義的価値を重視し、韓国人留学生は、日本と中国の中間に位置することが認められ、ほぼ同様の傾向が認められた。このことは異なる社会文化的状況が学生の教育価値観形成にも影響を及ぼすことを示している。

一方、多文化からの留学生と日本人教師の関係する教育場面では、留学生と日本人教師との間で葛藤が生じた場合、学生集団間で解決方略の違いが見出されている。たとえば、中国人留学生は韓国人留学生よりも服従や回避などの消極的方略をよく用いたのに対し、韓国人留学生は回避方略を少なく対決方略を相対的によく用いる傾向があった（加賀美・大淵，2004）。このように学生集団によって葛藤解決方略が異なることは、その背景に教育価値観の違いがあるのではないかと考えられる。そのような仮説のもとで、加賀美（2007）は葛藤解決と教育価値観との関連を検討した結果、教師主導、学生の従順、規則順守を含む伝統（権威）的価値観を持つ学生は、教師に対し対決方略を用いる傾向が見られ、一方、教師の専門性と技能の向上を追い求め、学生の潜在的能力を引き出すように熱意を持って支援しようとする自己実現的価値を持つ学生は、協調方略を用いる傾向が見られた。ここで問題となるのは、伝統（権威）的価値観を重視する学生たちが文化的背景の異なる教師に対し対決的態度を持つということである。教師の威厳と教室規範を重視する伝統（権威）主義的価値は、権威主義的な態度を含んでいるため、権威主義的な態度を有する人は外集団成員に対して批判的である傾向がある（Scodel & Mussen, 1953）。すなわち、この価値を重視する学生は文化的背景の異なる日本人教師を外集団成員と見なし、その結果、問題の原因が教師側にあるという批判的認知を強く持ち日本人教師の指導に対し異文化への同化を強いていると感じた可能性があるのではないかと考えられる（加賀美，2007）。このように異文化間の教室内活動や教育指導がいかに自国と外国、同文化と異文化、外集団と内集団といった対立的図式を喚起しやすい状況になるかを示唆するものである。

上述したように、留学生を含む異文化間の教育場面では、教師と学生、学生同士などさまざまな葛藤を含むことが考えられ、その背後には教育価値観の違いが存在することが考えられる。しかしながら、これまでの研究では、対象者が日本に居住する中国と韓国の留学生だけであったため、本国に留まる一般の大学生とは異なる志向性や態度を持っている可能性がある。例えば、坪井（1994）によると、留学生は本来向学心を持った人たちで、言葉の問題を含め多くの困難を乗り越えて留学したため、ホスト国の学生と同一視するのは適切ではないと指摘している。このことから、留学生は教育価値観に関しても特別な態度をもっている可能性があり、教育価値観の国際比較をより適切に行うためには、本国に留まる一般の大学生を対象に調査を行う必要があると考えた。そこで、本研究では、上述した理由で留学生ではない本国の一般の大学生を対象に、また、国の範囲を拡大し日本に留学生を多く送り出している中国、韓国、台湾のほかマレーシアとタイを加え、さらにこれらのアジア諸国との比較のためにアメリカと日本を加え、7カ国・地域の大学生を対象に教育価値観の国際比較研究を行い、その異同を国別に検討することを目的とし

た。

方法

対象者

まず、日本語による質問票を作成した後、中国語、韓国語、台湾語、韓国版、マレー語、タイ語、英語の翻訳版を作成し、それぞれバイリンガルの翻訳者によるバックトランスレーション法を用いて妥当性を確認した。2006年8月から2007年6月まで、台湾3校、韓国4校、マレーシア1校、中国1校、日本5校、タイ2校、アメリカ2校の7カ国18校の大学生を対象に質問紙を配布し回収した。

有効回答数は、台湾245名（男性109名、女性136名）、韓国251名（男性117名、女性134名）、マレーシア199名（男性155名、女性44名）、中国207名（男性40名、女性167名）、日本259名（男性114名、女性145名）、タイ174名（男性52名、女性122名）、アメリカ106名（男性54名、女性52名）の合計1441名（男性641名、女性800名）であった。質問票には教育現場の改善が調査目的であることとプライバシーの厳守を明記した。対象者の全ての平均年齢は20.63歳で、台湾は20.55歳、韓国は21.73歳、マレーシアは19.41歳、中国は20.58歳、日本は20.2歳、タイは21.13歳、アメリカは20.73歳で、ほぼ20歳前後であった。

教育価値観の測定

教育価値観の測定については、理想的教師観、理想的学生観、理想的教育観の3領域の12下位尺度から成る31項目の短縮版教育価値観尺度（加賀美，2007）を使用した。理想的教師観の下位尺度は、専門性、熱意、学生尊重、教師主導から、理想的学生間の下位尺度は、意欲、従順、規則遵守から、理想的教育観の下位尺度は人材教育、文化的視野、自主独立、社会化、創造性から構成される。理想的教師観については、「一般的に『良い教師』とはどんな人だと思いますか。あなたはそれらが『良い教師』の条件としてどの程度重要だと思いますか」と教示し、13項目を評定させた。同様に、理想的学生観については「一般的に『良い学生』とはどんな人だと思いますか。あなたはそれらが『良い学生』の条件としてどの程度重要だと思いますか」と教示し、6項目を評定させた。理想的教育観についても「一般的に、教育において大事だと思う事は何か。あなたは、それらが『良い教育』の条件としてどの程度重要だと思いますか」と教示し、12項目を評定させた。それぞれの項目について、「全く重要ではない（1点）」～「非常に重要である（5点）」の5件法で回答させた。

結果

まず、データを標準化した。短縮版教育価値観尺度の得点については、教育価値観の3領域12下位尺度のそれぞれを構成する項目の平均値を算出し、それを下位尺度得点とした。

理想的教師観

理想的教師観については、4つの下位尺度（専門性、熱意、学生尊重、教師主導）を7カ国・地域の大学生対象者群（台湾、韓国、マレーシア、アメリカ、中国、日本、タイ）間で比較するために、一元配置分散分析を行った。さらに、Bonferroniを用いた多重比較を行った（表1、図1）。

その結果、専門性、熱意、学生尊重に関しては、7カ国・地域の学生ともに全体のパターンがほぼ類似

している傾向が見られた。一方、教師主導については、アジア6カ国の学生ではほぼ類似している傾向が見られた。

個別の下位尺度ごとに述べると、まず専門性については、国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434)=18.386, p < .01$)。平均値の評定の高い順に、日本>マレーシア>韓国>台湾>中国>タイ>アメリカであった。多重比較の結果、表1のとおり、日本の学生の専門性の平均値はマレーシア以外の5カ国の学生より有意に高かった。また、アメリカの学生の平均値はタイ以外の5カ国の学生より有意に低かった。

熱意については、国別対象者群間に有意差が認められ、($F(6,1434)=5.207, p < .01$)、評定の高い順に、タイ>韓国>中国>台湾>アメリカ>マレーシア>日本であった。多重比較の結果、日本の学生の平均値は、台湾、韓国、中国、タイの学生よりも有意に低かった。

学生尊重においても国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434)=30.796, p < .01$)。評定の高い順に、タイ>中国>台湾>韓国>マレーシア>日本>アメリカであった。多重比較の結果、タイの学生の平均値は中国の学生以外の5カ国より有意に高かった。中国の学生の平均値は韓国、マレーシア、日本、アメリカの学生より有意に高かった。台湾の学生は韓国、マレーシア、日本、アメリカ、タイの学生より有意に高かった。韓国の学生は日本、アメリカの学生より有意に高かった。

教師主導においても国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434)=113.732, p < .01$)。評定の高い順に、アメリカ>タイ>マレーシア>日本>韓国>台湾>中国であった。多重比較の結果、中国の学生が最もこの価値を重視しておらず、中国及び台湾の学生はアメリカ、日本、韓国、タイ、マレーシアの学生より有意に低かった。韓国の学生もアメリカ、日本、タイ、マレーシアの学生より有意に低かった。日本の学生はアメリカの学生よりも有意に低く、中国、台湾、韓国の学生より有意に高かった。

表1 理想的教師観：4下位尺度の平均値と多重比較

出身国	専門性		熱意		学生尊重		教師主導	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
台湾	0.579	0.382	0.175	0.426	0.000	0.640	-1.849	0.763
韓国	0.591	0.355	0.214	0.430	-0.187	0.664	-1.636	0.602
マレーシア	0.630	0.305	0.136	0.349	-0.253	0.732	-1.122	0.732
アメリカ	0.336	0.363	0.138	0.421	-0.510	0.784	-0.250	0.819
中国	0.538	0.358	0.190	0.425	0.071	0.618	-2.034	0.789
日本	0.735	0.385	0.040	0.446	-0.454	0.747	-1.193	0.626
タイ	0.469	0.462	0.216	0.404	0.277	0.650	-0.951	0.725
F値	18.386***		5.207***		30.796***		113.732***	
多重比較	台>米***, 日>台***, 韓>米***, 日>韓***, 韓>タイ***, マレ>米***, マレ>タイ*** 米<中***, 米<日***, 日>タイ***		台>日***, 韓>日***, 中>日***, タイ>日***		台>韓*, 台>マレ***, 台>米***, 台>日***, 台<タイ***, 韓>米***, 韓<中***, 韓>日***, 韓<タイ***, マレ>米*, マレ<中***, マレ>日*, マレ<タイ***, 米<中***, 米<タイ***, 中>日***, 日<タイ***		台<韓*, 台<マレ***, 台<米***, 台<日***, 台<タイ***, 韓<マレ***, 韓<米***, 韓>中***, 韓<日***, 韓<タイ***, マレ<米*, マレ>中***, 米>中***, 米>日***, 米>タイ***, 中<日***, 中<タイ***, 日<タイ***	

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

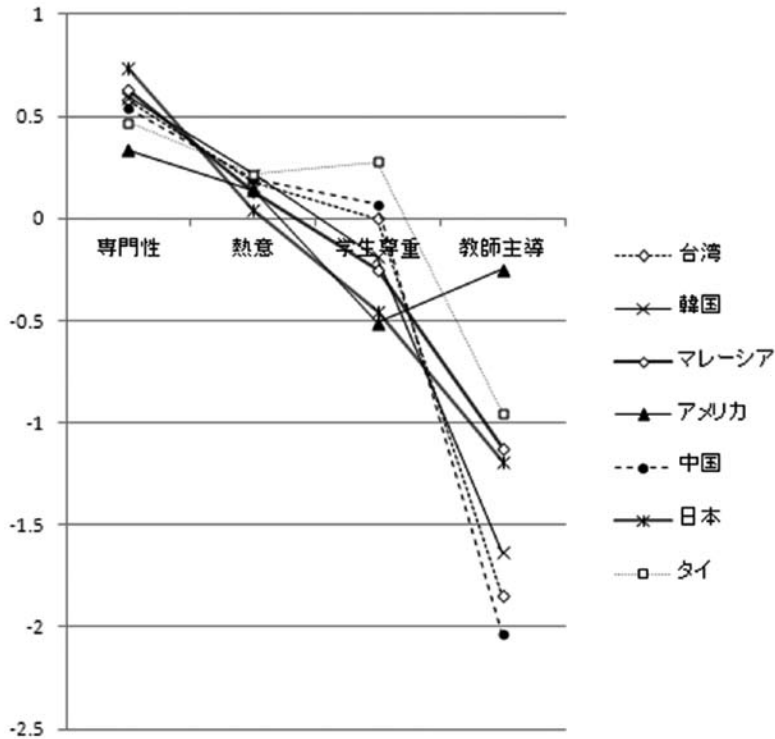


図1 理想的教師観の7カ国・地域比較

理想的学生観

理想的学生観については、表2、図2のとおり、3つの下位尺度（学習意欲、規則遵守、従順）と7カ国・地域の大学生対象者群（台湾、韓国、マレーシア、中国、日本、タイ、アメリカ）の一元配置分散分析を行い、さらに、多重比較を行った。

図2のとおり、学習意欲、規則遵守については、全体のパターンが7カ国・地域でほぼ類似している傾向が見られた。一方、従順については、マレーシア以外の6カ国の学生は類似した傾向が見られた。

個別の下位尺度ごとに述べると、まず、学習意欲については国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434) = F = 18.015, p < .01$)。評定の高い順に、マレーシア > 日本 > アメリカ > 韓国 > 中国 > タイ > 台湾の順であった。表2の多重比較の結果、台湾の学生はほかの6カ国の学生より有意に低かった。マレーシアと日本の学生は中国やタイの学生より有意に高かった。

規則遵守についても、国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434) = 19.524, p < .01$)。評定の高い順に日本 > 韓国 > アメリカ > 台湾 > タイ > 中国 > マレーシアであった。多重比較の結果、日本および韓国の学生は台湾、マレーシア、中国、タイの学生より有意に高かった。マレーシアの学生は日本、タイ、韓国、台湾の学生より有意に低かった。

従順においても国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434) = 85.170, p < .01$)。評定の高い順に、マレーシア > アメリカ > 台湾 > 中国 > タイ > 韓国 > 日本の順であった。多重比較の結果、マレーシアの学生はほかの6カ国の学生より有意に高かった。アメリカの学生は韓国、中国、タイ、日本の学生より有意に高く、マレーシアの学生より有意に低かった。台湾の学生は韓国、中国、日本、タイの学生より有意に

表2 理想的學生観：3下位尺度の平均値と多重比較

出身国	学習意欲		規則遵守		従順	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
台湾	0.154	0.628	-0.234	0.753	-0.265	0.605
韓国	0.453	0.540	0.066	0.655	-0.538	0.603
マレーシア	0.599	0.471	-0.481	0.898	0.266	0.528
アメリカ	0.528	0.481	-0.022	0.633	-0.061	0.679
中国	0.374	0.481	-0.351	0.706	-0.510	0.643
日本	0.543	0.536	0.112	0.723	-0.987	0.671
タイ	0.332	0.537	-0.238	0.787	-0.523	0.699
F値	18.015***		19.524***		85.170***	
多重比較	台<韓*, 台<マレ***, 台<米***, 台<中***, 台<日***, 台<タイ***, マレ>中***, マレ>タイ***, 中<日***, 日>タイ***		台<韓***, 台>マレ***, 台<日***, 韓>マレ***, 韓>中***, 韓>タイ***, マレ<米***, マレ<日*, マレ<タイ***, 米>中***, 中<日***, 日>タイ***		台>韓*, 台<マレ***, 台>中***, 台>日***, 台>タイ***, 韓<マレ***, 韓<米***, 韓>日***, マレ>中***, マレ>日*, マレ>タイ***, 米>中***, 米>日***, 米>タイ***, 中>日***, 日<タイ***	

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

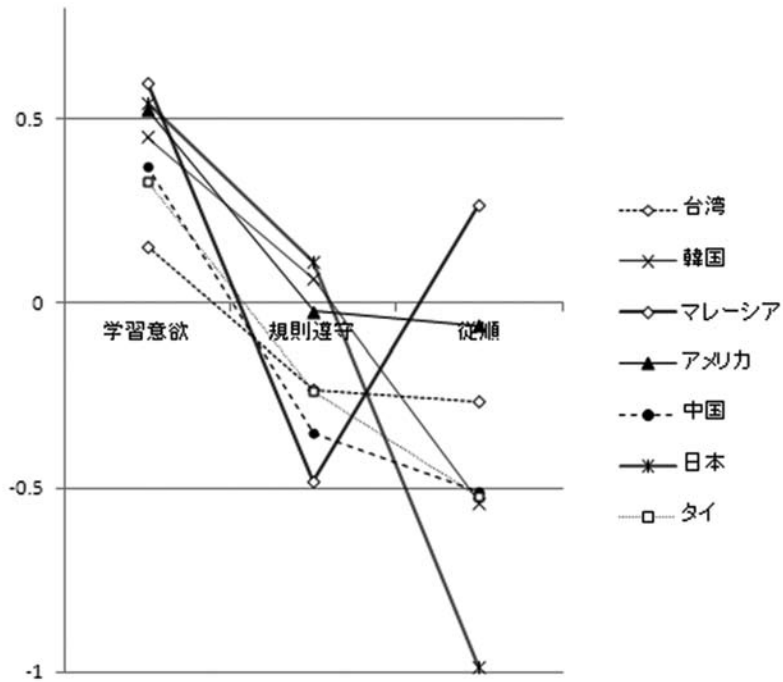


図2 理想的學生観の7カ国・地域比較

高くマレーシアの学生より有意に低かった。日本の学生はほかの6か国より有意に低かった。

理想的教育観

理想的教育観については、表3、図3のとおり、5つの下位尺度（文化的視野、人材教育、社会化、自主独立、創造性）と7カ国の大学生対象者群（台湾、韓国、マレーシア、中国、日本、タイ、アメリカ）の一元配置分散分析を行い、さらに、多重比較を行った。

図3のとおり、全体のパターンはマレーシア、アメリカ、日本以外のアジア4カ国においてほぼ類似している傾向が見られた。個別の下位尺度ごとに述べると、まず、文化的視野については国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434) = 23.531, p < .01$)。評定の高い順にアメリカ > 台湾 > 韓国 > 中国 > マレーシア > 日本 > タイの順であった。表3の多重比較の結果、アメリカ、台湾及び韓国の学生はマレーシア、日本、タイより有意に高かった。

人材教育についても、国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434) = 8.641, p < .01$)。評定の高い順に、タイ > マレーシア > 中国 > 台湾 > アメリカ > 韓国 > 日本であった。多重比較の結果、タイ及びマレーシアの学生は韓国、日本の学生より有意に高かった。日本の学生は最も低くマレーシア、中国、台湾の学生より有意に低かった。

社会化においても、国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434) = 43.097, p < .01$)。評定の高い順に、日本 > 中国 > 台湾 > マレーシア > 韓国 > タイ > アメリカの順であった。多重比較の結果、日本、中国及び台湾の学生は、マレーシア、韓国、タイ、アメリカの学生より有意に高かった。

自主独立においても国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434) = 53.280, p < .01$)。評定の高

表3 理想的教育観：5下位尺度の平均値と多重比較

出身国	文化的視野		人材教育		社会化		自主独立		創造性	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
台湾	0.286	0.641	0.154	0.609	-0.062	0.556	0.479	0.407	-0.235	0.626
韓国	0.240	0.570	0.079	0.684	-0.306	0.517	0.658	0.366	-0.481	0.615
マレーシア	0.038	0.580	0.312	0.635	-0.233	0.586	0.111	0.434	0.310	0.499
アメリカ	0.331	0.643	0.126	0.581	-0.864	0.608	0.474	0.406	0.008	0.677
中国	0.159	0.624	0.182	0.574	0.008	0.536	0.521	0.397	-0.513	0.659
日本	-0.095	0.633	-0.033	0.663	0.010	0.517	0.716	0.385	-0.976	0.689
タイ	-0.268	0.639	0.329	0.657	-0.349	0.581	0.317	0.505	-0.378	0.651
F値	23.531***		8.641***		43.097***		53.280***		88.739***	
多重比較	台 > マレ***, 台 > 日***, 台 > タイ***, 韓 > マレ***, 韓 > 日***, 韓 > タイ***, マレ < 米***, マレ > タイ***, 米 > 日***, 米 > タイ***, 中 < 日***, 中 > タイ***		台 > 日*, 韓 < マレ***, 韓 < タイ***, マレ > 日***, 中 > 日***, タイ > 日***		台 > 韓***, 台 > マレ*, 台 > 米***, 台 > タイ***, 韓 > 米***, 韓 < 中***, 韓 < 日***, マレ > 米***, マレ < 中***, マレ < 日***, 米 < 中***, 米 < 日***, 中 > タイ***, 日 > タイ***		台 < 韓*, 台 > マレ***, 台 < 日***, 台 > タイ***, 韓 > マレ***, 韓 > 米***, 韓 > 中***, 韓 > タイ***, マレ < 米***, マレ < 日***, マレ < タイ***, 米 < 日***, 米 > タイ***, 中 < 日***, 中 > タイ***, 日 > タイ***		台 > 韓*, 台 < マレ***, 台 < 米***, 台 > 中***, 台 > 日***, 韓 < マレ***, 韓 < 米***, 韓 > 日***, マレ > 米***, マレ > 中***, マレ > 日***, マレ > タイ***, 米 > 中***, 米 > 日***, 米 > タイ***, 中 > 日***, 日 < タイ***	

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

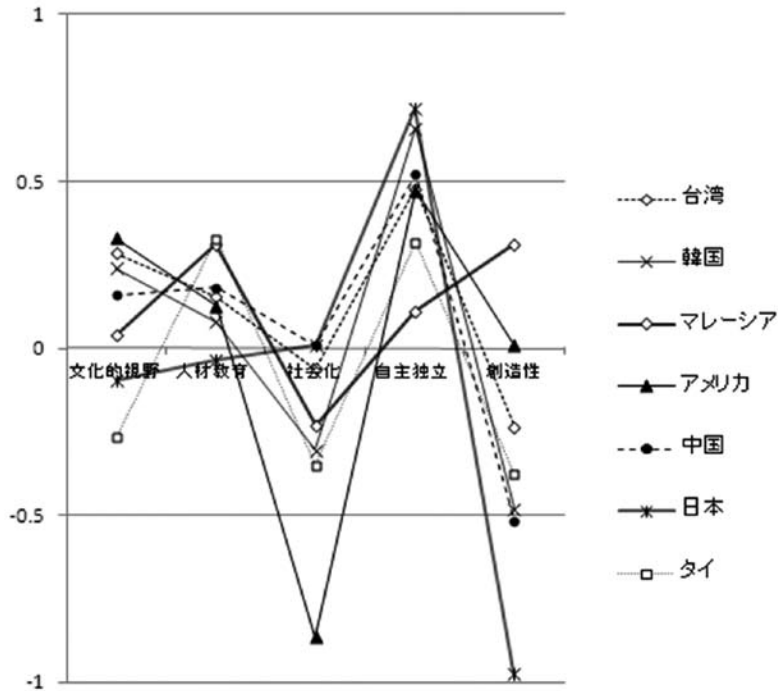


図3 理想的教育観の7カ国・地域比較

い順、日本>韓国>中国>台湾>アメリカ>タイ>マレーシアの順であった。多重比較の結果、日本及び韓国の学生は中国、台湾、アメリカ、タイ、マレーシアの学生より有意に高かった。マレーシアの学生はほかの6カ国の学生より有意に低かった。

創造性についても、国別対象者群間に有意差が認められた ($F(6,1434)=88.7, p<.01$)。評定の高い順にマレーシア>アメリカ>台湾>タイ>韓国>中国>日本の順であった。多重比較の結果、マレーシアの学生はほかの6カ国の学生より有意に高かった。アメリカの学生はマレーシアの学生より有意に低く、台湾、タイ、韓国、中国、日本の学生より有意に高かった。台湾の学生は韓国、中国、日本の学生より有意に高く、マレーシア、アメリカの学生より有意に低かった。

考察

本研究は、日本における留学生の上位受け入れ国であるアジア5カ国・地域とアメリカ、日本を合わせた7カ国・地域の大学生の教育価値観を領域ごとに国際比較し検討を行ったものである。その結果、違いの顕著な国もあるが、全体的にみると理想的教師観、理想的学生観の2領域に関しては、かなり類似した価値観を持っていることが示された。しかし、理想的教育観については、マレーシア、アメリカ、日本の3カ国の大学生は、それ以外の4カ国の大学生に比べ教育価値観のいくつかの次元において異なる特徴を持っていることが示された。

まず、全体的な特徴として理想的教師観は、評定の高い順に専門性、熱意、学生尊重となっており、7カ国・地域の共通性が見られた。特に最も高い専門性は、「専門分野の知識」、「博識で広い視野」、「授業

方法の工夫]、[わかりやすい説明]等の項目から構成されており、こうした知識面、技術面などが教師に必要な不可欠であるとともに、教師の専門的パワーの重要性を示している(淵上, 2000)。特に、学生尊重より教師主導が高いのはアメリカの学生で、他のアジア6カ国の学生との違いが見られた。本調査対象者であるアメリカの学生たちは、教師の役割や職務に関して教師主導や教室内でのリーダーシップへの期待が強く、アジア諸国の学生の教師への期待とはかなり異なることが示唆された。

理想的学生観については、学生の学習意欲や規則遵守が7カ国・地域に共通する傾向を示し、どの国の学生も学習意欲を最も重視し、「好奇心の旺盛さ」、「努力」、「自律した学習の進め方」など自発的で積極的な学生像が期待されていることが明らかになった。また、規則遵守と従順については、7カ国・地域の差異が大きく、規則遵守は日本の学生が最も高く従順は最も低かった。その一方、マレーシアの学生は逆に、規則遵守が最も低く従順が高かった。マレーシアについては、Hofstede (1980) のIBM調査で抽出された権力格差の次元で1位だったことからわかるように、教育場面でも教師への従順という価値がほかの6カ国の学生と比べ格段に重視されているといえる。このことは多文化の教室場面や学校文化では、学生同士、教師と学生の教室内規範やルール、マナーなど文化的価値観の相違から葛藤が生じやすい状況を示すものである。

理想的教育観については、マレーシア以外の6カ国の学生とも自主独立が最も重視され、「意欲を引き出す」、「自分で判断し行動する」という項目からわかるように、自律や独立が重視されていた。理想的学生観の学習意欲と理想的教育観の自主独立はやや意欲と自律という点で重複した内容を含んでおり、良い学生に対する期待が理想的教育観を反映していると考えられる。このことは2004年に実施した韓国人留学生、中国人留学生、日本人大学生の異文化間比較でも同様の傾向が見られた(加賀美, 2004)。社会化、創造性については7カ国・地域の差異が大きく、アメリカの学生は突出して社会化が低かった。このことは一般的に個人主義的傾向を持つアメリカの学生の価値観を反映している結果ともいえる(Triandis, 1995)。自由意思を含む創造性については、日本の学生が最も低く、その一方で社会化の高さと連動し規範重視の価値を持っているといえる。このように、日本人学生はあまり自由を求めず規範に拘束されている保守性重視の傾向が認められた。全体として7カ国・地域は共通性もあるが、マレーシア、日本、アメリカの大学生に関しては、教育価値観の領域によって他国との相違性が浮き彫りにされた。

次に、国ごとにその特徴を述べ考察をしていく。まず、日本の学生に焦点を当てて論じていきたい。日本の学生は教師に対して7カ国・地域の中で最も強く専門性を強く求めており、学生の学習意欲や規則遵守を最も高く評定し、一方、学生の従順は最も低かった。また、社会化や自主独立を強く求め、創造性は最も低かった。

このことから、日本の学生は教師と学生との親密さなど情動的な関係よりは学問上の接点が重視され、教師と心理的距離を保つ傾向があるといえる。2003年のNHK放送文化研究所による中学生・高校生の生活と意識調査でも、悩みごとの相談相手として教師を選択している生徒はわずか1%であり、日本では情動的関係を満たす相手として教師は期待されていないことが示されている。また、日本の学生は集団の中で時間を厳守するなど規則遵守や社会化を重視し、自由な意思や行動を相対的に尊重しない傾向が見られた。このことは、日本の学生が自由に行動することを抑え、他者との関係の中で相手に過剰に合わせようとしている現代の若者の行動傾向とも考えられる。これは、加賀美(2004)の異文化間比較でも同様の傾向が示されたように、日本の学生は保守性と革新性という二律背反的な複合した価値志向をもつといえる。さらに、これは個人主義志向、集団主義志向という観点からもとらえられる(Triandis, 1995)。たとえば、学習意欲や自主独立を重視し、従順や人材教育を重視しない点では、個を尊重する個人主義的志

向とみられるが、規則遵守や社会化を重視し、自由意思などの創造性を相対的に重視しない点では、集団主義的志向とみられる。このように日本の学生は、7カ国・地域の中では個人主義志向と集団主義志向が入り混じり、多様な価値観の軸が交差している。そのことは、日本社会が多様な教育価値観も認めるが故に、学生はその志向すべき方向性が明確に見えていない状況にいるのではないかと考えられる。

次に、マレーシア学生は教師に対して7カ国・地域の中で、専門性や教師主導を重視する傾向があり、学生の学習意欲や従順も最も高かった。一方で規則遵守や自主独立が最も低い傾向があり、このことは規則に関してはかなり柔軟に考える傾向があり、教師との関係においては上下関係を維持し受動的態度を持つことを示している。加賀美・守谷等（2006）の研究では、マレーシアにおける日本人日本語教師の葛藤を検討した結果、宗教行事が学校教育の中で優先されることや受動的学習態度、時間厳守の感覚の不一致などが葛藤として挙げられている。このように、教師と学生の上下関係の重視や自主独立の低さはマレー系の優遇政策による受動的な学習態度と関連しているものと考えられる。一方、人材教育、創造性の重視については、マハティール前首相が2020年までに経済成長率7%を維持し、経済的にイスラム国として最初の先進国の地位を達成し、社会文化的に成熟したアジア的精神の先進国を建設するという国家発展構想を掲げている（杉本、2004）ことから、途上国から先進国入りしていこうとする大学生たちの使命感をあらわすものといえる。

次に、アメリカの学生について論じると、彼らは教師に対して他国の学生より教師主導と従順を重視し、リーダーシップの強い教師を期待する傾向が見られた。個と多様性を重視する国であるため（V.N.パリーロ、1997）、文化的視野が最も高く創造性も重視しているものの、社会化は最下位で、あまりこの価値を重視していなかった。こうした自由意思を尊重し、社会化を重視しない傾向は個人主義的な傾向が背景にあることが考えられる（Triandis, 1995）。

次に、タイの学生は教師に対して7カ国・地域の中で相対的に学生尊重が高く教師主導も重視していた。学生の学習意欲、従順も重視しており、教師と学生との情動的な関係性が重視され、総合的に安定した上下関係を重視する傾向が見られた。これは、タイが就学前の学習活動から「国王、仏教、民族共同体」という生活空間の中で、それらを統合するような文化規範が形成されていることによる（鈴木、2006）ものではないかと考えられる。また、7カ国・地域の中では人材育成の価値を最も高く重視し、一方、異文化交流についてはあまり重視していない傾向が見られた。このことは、2001年からタイの教育省はグローバル化による国際競争力とともに、タイ人らしさを身につけた人材育成を目指していることが関連しているのではないかと考えられる。タイ国民育成のための教育が各教育段階で強調され、タイの歴史や文化、仏教規範にかかわる教育カリキュラムが盛り込まれた（鈴木、2006）ことにより、本調査の対象者も異文化交流の価値よりタイ人としてのアイデンティティ形成を重視した国内中心的な価値志向が表れたのではないかと考えられる。

最後に、東アジアの3カ国の学生たちは概して類似した傾向が見られた。まず、中国の学生は学生尊重の価値を重視し教師主導の価値は最下位であった。このことから教師との権威主義的な上下関係より対等な水平的関係が重視されている傾向が見られた。また、昨今、教師が尊敬される対象でなくなってきているという指摘もある（高、2006）。理想的学生観に関しては、7カ国・地域の中で学習意欲、従順、規則遵守ともに中間的位置であった。理想的教育観については、社会化、人材教育の価値が相対的に高いものの、創造性が相対的に低く自由な活動をあまり重視していない傾向が見られた。

韓国の学生は、理想的教師観については東アジア諸国の中では中間的位置を占め、学生尊重や教師主導の価値はそれほど重視していない傾向が見られた。理想的学生観についても中間的位置を占めるが、学習

意欲、規則遵守は相対的に重視している一方、従順は相対的に重視していない傾向が見られた。また、自主独立も日本の学生に次いで高いことから、日本大衆文化の開放により現代的な日本の価値も流入され影響を受けてきているため（朴・土屋，2002）、やや日本の学生の価値志向に類似しているのではないかと考えられる。

台湾の学生は学生尊重を重視する傾向が見られたが、教師主導はあまり重視していないことから、教師と学生との権威主義的な関係より水平的で融和的な関係が重視されている。また、理想的学生観の学習意欲は7カ国・地域の中で最下位であったが、自主独立や創造性も中間的位置を占めるため、この理由については本調査結果からは明確に説明できないが、今後、質的な研究を行うことによって検討する必要がある。理想的教育観は7カ国・地域の中でほぼ中間的位置を占めるが、教育の国際化や異文化交流の価値が2位と高く、国外に向かう教育関心が強いことが見て取れる。

以上のとおり、本調査に関しては、アメリカ、日本、マレーシアの学生の教育価値観が7カ国・地域の中では非常に特徴的であり、タイと東アジアの中国、韓国、台湾の学生の教育価値観はかなり共通性があることが見出された。一方、中国と韓国の本国大学生については、2004年に行われた韓国と中国の留学生、日本人学生との異文化間比較調査（加賀美，2004）との異同も見ることができた。特に、理想的教師観の専門性、理想的学生観の学習意欲、理想的教育観の自主独立はいずれの国においても最も重視され、これは2004年の異文化間比較でも同様の傾向が示されたので、留学生が特有に持ち合わせる価値観というより大学生の持つ共通する教育価値観と言えるだろう。

しかし、2004年の留学生を含む異文化間比較調査と今回の本国の学生の国際比較調査において異なる点も見出された。2004年の異文化間比較では、中国人留学生は教師の熱意、従順な学生、社会化、人材教育を重視した教育価値観を持っていたが、今回の国際比較調査では中国本国の学生は、理想的教師観の学生尊重を重視している一方、教師主導はほかの国と比べ最も重視しておらず従順さも低かった。同様に、韓国についても2004年の異文化間比較調査では、理想的教師観の教師主導が重視されていたが、国際比較調査では、韓国本国の学生は教師主導も相対的に重視しておらず、理想的学生観の従順も重視していない傾向が示された。つまり、儒教文化を基盤とする権威重視の価値観を中国、韓国の学生はともに重視していないことが明らかになった。これは本国の学生と日本に居住する留学生の特性の違いなのか、時間的経過とともに本国の社会的変化がもたらす学生の教育価値観の変化なのかは、本調査だけでは明確にその理由を説明できないため、今後の課題とされる。

さらに、日本の大学生は2004年の調査対象者の価値観と本調査対象者の価値観ではかなり共通点があることが示された。文化的価値観は社会化の過程で形成され維持されるものであるため、変化しにくいこともあるが、昨今、日本社会が国内外のグローバル化で大きな変化を強いられているものの、日本人学生においては東アジア諸国の学生と比べ、時間的経過とともに教育価値観があまり変化しなかったといえる。このことは日本の学生の保守的傾向を示すものといえる。

文化的価値観は、ある文化的背景を持つ人々にとっては重要であるが、別の文化的背景を持つ人々にとっては全く重要でないものを含むため、文化的背景の異なる多様な学生同士や教師と学生との間に葛藤が起きやすいことにも留意する必要がある（加賀美・大淵，2004ほか）。特に、本研究結果が示す理想的教師観の教師主導については、国によって教室内の教師の社会的勢力やリーダーシップに不満を持つ学生もいれば、むしろそれを教師の役割や職務として認識し肯定的評価をする学生もいるため、異文化間葛藤の影響要因として文化的価値観の差異や意味を理解していくことは重要である。

以上のとおり、グローバル社会において多文化の学生に対する教育活動を実施する上では、多様な個別

の価値観とともに、エスニック集団としての価値観を交差しながら、学生個人の価値観の複合性を総合的に認識する必要がある。最後に、本研究では対象者や調査時期が限定されており、得られた結果も制約を受けているため、過度の一般化は避けた。今後の課題としては、7カ国・地域の大学生の一般的な価値観を検討するとともに、教育価値観を形成する多様な背景要因についてインタビュー等により質的な分析を付加し総合的に検討していきたい。

参考文献

- 阿久津智・小林孝郎 (2000) 「マレーシアの教育政策と日本語教育」 本名信行・岡本佐智子編『アジアにおける日本語教育』三修社
- 淵上克義 (2000) 『教師のパワー—児童生徒理解の科学』ナカニシヤ出版
- Hofstede, D. (1980) *Culture's Consequence International Differences in Work Related Values*. Beverly Hills CA: Sage Publications.
- 加賀美常美代 (2004) 「教育価値観の異文化間比較—日本人教師と中国人学生、韓国人学生、日本人学生との違い—」『異文化間教育』19, 67-84
- 加賀美常美代 (2007) 『多文化社会の葛藤解決と教育価値観』ナカニシヤ出版
- 加賀美常美代・大淵憲一 (2004) 「日本語教育場面における日本人教師と中国人及び韓国人学生の葛藤の原因帰属と解決方略」『心理学研究』74-6, 531-539
- 加賀美常美代・大淵憲一 (2006) 「教育価値観に関する異文化間比較：短縮版尺度開発と包括次元の探索」『文化』69号3・4, 96-111
- 加賀美常美代・守谷智美・佐藤真紀・高橋織恵 (2006) 「マレーシアにおける日本語教師の葛藤」『2006年度異文化間教育学会第27回大会抄録集』92-93
- 高向山 (2006) 「第2章 後期多面注力の就学前教育」池田充裕、山田千明編著『アジアの就学前教育』明石書店
- 文部科学省 2008 「留学生30万人計画」骨子
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/07/08080109.htm.
- NHK放送文化研究所編 (2003) 『NHK中学生・高校生の生活と意識調査：楽しい今と不確かな未来』NHK出版
- 朴順愛・土屋礼子 (2002) 『日本大衆文化と日韓関係—韓国若者の日本イメージ』三元社
- Rokeach, M. (1973). *The Nature of Human Values*. New York: Free Press.
- Schwartz, S. H., & Bilsky, W. (1987). "Toward A Universal Psychological Structure of Human Values." *Journal of Personality and Social Psychology*, 53, 550-562
- Scodel, A., & Mussen, P. (1953). "Social Perception of Authoritarians and Nonauthoritarians." *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 48, 181-184
- 杉本均 (2004) 『マレーシアにおける国際教育関係』東信堂
- 鈴木康郎 (2006) 「第5章 タイ：グローバル化時代における伝統文化の保持と揺れる学力観」池田充裕、山田千明編『アジアの就学前教育』明石書店
- 坪井健 (1994) 「第3章 国際比較からみた日本の学生」『国際化時代の日本の学生』学文社
- Triandis H.C. (1995) *Individualism and Collectivism*. Westview Press Inc.
- バリーロ・ヴィンセント・N (1997) 『多様性の国アメリカ-変化するモザイク』富田虎男訳 明石書店

大学生の教育価値観の国際比較

【付記】

- ・本調査にご協力くださった関係諸国の高等教育機関および関係者の皆様に心より感謝申し上げます。
- ・本研究は「教育価値観と葛藤解決の包括的研究：国際比較と世代間比較」平成20年～22年度科学研究費補助金（基盤研究(C)研究代表者：加賀美常美代）による成果報告の一部である。また、本論文は2010年7月に台湾で行われた世界日語教育大会での発表をもとに再検討し論文化したものである。